

# 労山愛知

愛知県勤労者山岳連盟機関紙

2023年10月19日日発行

No. 605号 (第55期 8号)

〒454-0055

名古屋市中川区十番町 2-8

栄和産業(株)ビル 2F

TEL/FAX 052-654-1411

<http://aichirousan.web.fc2.com/>

## 第 55 期代表者会議 報告(概要)



10月1日(日)9時30分より県連事務所にて第55期代表者会議を開催しましたので、概要をお知らせします。

会議では廣田会長挨拶の後、佐藤理事長から「はじめに」の報告、各専門部の報告を行い、それぞれの報告についての質疑を行いました。

また、各会よりコロナ以後の山行活動、会運営・会員拡大について報告を出し合いました。特に、今年7月に発生した無届山行での死亡事故について、計画書の作成・提出の重要性、会の役割などについて確認し合いました。質疑・意見交換について詳細は、次号に掲載予定。

(次頁につづく)

### 《目次》

	第55期代表者会議 報告(概要)	1
教育部	10/5(木) 第7回教育担当者会議を開きました	2
〃	県連教育部交流山行(ブナ清水でのロープワーク) 報告	2
女性部	10月6日(木)に女性部会を開きました。	3
	2023 全国ハイキングリーダー学校 報告	4
	労山基金「オンライン説明会」の案内	8
	カレンダー	9

(表紙からのつづき)

[出席者] (あつた労山) 佐藤、(春日井峠の会) 箕浦・山本、(かわせみ山楽会) 白水、  
(じねんじょ山の会) 脇田、(スルジェ山の会) 定広・杉田、(東海山岳会) 倉田、(名古屋ありんこ) 岡部、  
(名古屋山歩会) 渡辺、(半田F) 洞井、(東三河山ぽ会) 松本、(みどり山の会) 兼子、  
(山の会くらら) 吉田、(若駒山岳会) 樋江井、(尾張HC) 吉川

(理事・役員) 廣田会長、佐藤理事長、吉川事務局長、中橋財政、吉田、榊原、戸田、後藤、  
[欠席山岳会] 犬山マップ・おやこ山の会・ちんぐるま・名古屋 ASC・同志会・低い山・ふわく山の会  
[司会] 中橋 [記録] 後藤

## **教育部 10/5(木) 第7回教育担当者会議を開きました**

日時：10月5日(木) 19時30分～ (zoom会議で実施)

参加者：くらら(吉田)、あつた(坂木)、かわせみ(野村、佐伯)、犬山マップ(村松)、  
ありんこ(榊原) 計 5山岳会 6名

### (1) 前回議事録の確認

前回議事録を確認しました。

### (2) 雪山安全講習会について

#### ・講師分担について

・コロナ禍の際、最少人数での実施とし、同じ人が講師をしてきました。3年ぶりに講師の分担をするように取り組んできましたが、講座の講師の引き受け手が見つからず、今年も昨年同様に講座①③④を榊原(ありんこ)、講座②を大矢さん(部外講師)で実施することとなりました。

・スタッフは、佐伯(かわせみ)が引き受け、実技講師はまだ確定してない状況です。

※各会の活動が会員1人1人に支えられているように、県連活動も各会に支えられています。各会で荷を分かち合って行事を実施していきたいと思っていますので、ぜひ協力をしてもらえるよう、お願いしていきます。

#### ・受講の申し込み状況(10/5現在)

東三河1名、くらら3名、かわせみ1名、その他1名 計6名の申し込みがありました。

再度、各会教育担当及び理事の方に、メールで今一度会員に呼びかけをしていくこととします。

### (3) 交流山行について

次回は、1/28ですので、参加の呼びかけをよろしくお願いします。

### (4) 教育活動に関する意見交換

各会の今後の教育活動に役立つよう、今回は、各会でロープワークをどのように学習会・実技をしているか等の意見交換をしました。

(5) 次回の第5回教育担当者会議を2023年11月21日(火)に19時30分よりzoom会議で実施しますので、各会から奮って参加をお願いします。

## **県連教育部交流山行(フナ清水でのロープワーク) 報告**

下山後の一言感想を2つ紹介します。

「各山岳会で皆さんロープワークの講習をやっていますが、実践的にフナ清水で木にロープを結び、半マストで下降実技する事で新鮮でリアルな体験が出来ました。10年ロープワークをやっても、いざという時に身に付かない。やり続ける事で覚えていくしかない。今日の実技講習で帰ってから復習したい思います。」

「今では皆さんスマホ携帯を山行に持って行きますが、山では思いのほかバッテリーが早く無くなり、遭難事故での位置情報で肝心なところで通話が切れる事があり、個人装備の中でも予備の

バッテリーを持つことを勧めます」との意見もありました。

今回のコースを初めて歩く方も、渡渉があり変化に富み、楽しく天気にも恵まれ皆さん事故無く無事に下山でき、有意義な交流山行でした。  
(みどり山の会 山本良夫)



## **女性部 10月6日(木)に女性部会を開きました。**

出席は4山岳会4名(くらら、あつた、みどり、春日井峠)

11月23日(日)の女性部交流山行について打ち合わせをしました。

※先月の「労山愛知」に山行の概要を掲載しました。締め切り日を10月20日(金)としましたので、この号が届くころには期日を過ぎてしまっているかもしれませんが、多少のことは何とかいたします。申し込みがまだな方、どうぞ大至急ご連絡ください。

交流山行のお知らせ 期日：11月23日(日)

場所：飛騨地方・天蓋山(てんがいさん) 1,527m 通称ヤマップ新道から登ります。山頂には田部井順子さん筆の標柱が立っています。二等三角点の山。集合時間：AM 7:00 金山駅北イオン(旧ダイエー前) マイクロバス利用

定員：30名 参加費：5,000円(会費は各会で徴収する)

各会の理事か女性部担当に申し込み\*該当者がいない場合の申し込み先：河村恵子(春日井峠)  
090-7045-9495

## **2023 全国ハイキングリーダー学校 報告**

全国連盟主催の2023全国ハイキングリーダー学校に参加してきましたので、概要を報告します。

開催日：9月30日(土)～10月1日(日) 開催場所：奈良ユースホステル

主催：日本勤労者山岳連盟担当(ハイキング委員会) 主幹：奈良県勤労者山岳連盟

30日(土)に全体集会があり、小池藍・全国連盟事務局長から主催団体あいさつ、前佳一奈良県連盟会長から主幹団体あいさつと続き、学校の趣旨と内容について全国連盟の田上千俊さんから説明がありました。その後、二つの講義が行われました。

講義 ① 「高齢者の体と登山」 講師：豊田ふみよ 奈良勤労者山岳会 会員  
元・奈良県立医科大学医学部 准教授  
現・同大学博士研究員(神経生理学が専門)

講義 ② 「労山の歴史と平和と登山」 講師：荒木辰彦 福岡県勤労者山岳連盟会長  
荒木氏略歴——1945年昭和20年生まれ、福岡県生まれ。1966年4月労山立ち上げた。  
(自己紹介より)

31日(日)には高円山にて、ヤママップを利用した地図読み講習の予定でしたが、雨のためコースを変更しての開催となりました。

30日の参加者及び講師・スタッフは北海道から長崎県まで併せて68名で、愛知県連からの参加者は廣田・吉川(同志会)、松岡(あつた)、岩田・日高(スルジェ)、森(東三河)でした。

講義①は「高齢者の体と登山」というテーマで、元奈良県立医科大学医学部准教授の豊田ふみよさんから医学や生理学のご専門の知見から高齢者の登山で気を付けることのお話を伺いました。

登山は有酸素運動で健康を高める効果があるが、年齢が高いほど遭難者数(割合)も多い。原因として高齢者の心身の経年劣化、慢性疾患が深くかかわっている。体力の低下、感覚や認知機能の低下、不眠などによる睡眠の低下、消化吸収力の低下による低栄養は個人差があるものの高齢者の特徴でもある。さらに高齢者は持病を抱えていることが多い。

遭難予防には体力面と医療面の対策が大事。体力面では登山者は一般人と比べて脚筋力が強いが、年齢や登攀経験よりも運動習慣が重要。自分の登高能力を知り、日常的な筋力トレーニング、自分の能力にあった山を選ぶこと。

医療面では3大山岳疾患の外傷、心臓突然死、寒冷障害の対策が大事。腰回り・膝まわりの筋力強化。事前の準備として規則的な山登り・トレーニングの実施。年間の山行日数は最低でも2週間。メディカルチェックを受けること。持病のある人は医師に治療効果を確認。禁煙(必ず)。登山前日は十分な睡眠。水分を十分に摂取。アルコールを控える。登山中はゆっくり登る。水分を十分に摂取。炭水化物の補給を十分に(朝食はしっかりと、行動食を2時間おきにとる)。などなど、講義を聴きながら自分はやれていないことだらけだと反省しきりでした。(記 廣田)



## 講座②の報告

「労山の歴史と平和と登山」 講師：荒木辰彦 ——大凡の講義は下記の通り。

### 1.登山の歴史

- ・明治以前の登山——九州・英彦山、越中立山などの山岳信仰、江戸時代の加賀藩黒部奥山廻りの役目としての登山。登山と文化では松尾芭蕉が月山に句碑を残している事。

- ・明治～大正時代の近代登山について。——ウェストンやアーネストサトウによる日本の山の登頂。女人禁制であった山が明治5年の太政官布告により、女人禁制が解かれ、大正時代には女性も山に進出した。

- ・昭和～戦争 日本山岳連盟一行軍登山

- ・15年戦争で散った岳人たち

一般的には1941年12月8日真珠湾攻撃より太平洋戦争とされているが、戦時体制・戦争状態に入ったのは1931年9月18日満州事変(柳条溝事変)から開始された日中戦争からとすべき。これに先立つ1925年治安維持法公布、1938年3月国家総動員法成立など戦時体制が敷かれた。

・満州事変・日中戦争・太平洋戦争を通じて約 3,000 人の岳人が戦場に散ったと言われる。  
 ・これらの中には、加藤泰三(33 歳)1944 年ニューギニアで戦死。——戦争反対の見識を持っていた。湯浅 巖(31 歳)1944 年フィリピン戦死(立教大)——ナンダコート初登頂。山本明(25 歳)1940 年中国山東省で戦死、(神戸商大)——中国人民を馬鹿にするととんでもないことになる予言。中野徳郎(26 歳)1944 年レイテ島戦死。(東大)——もう遅い、なぜ戦争に敗退しなかったのか、転落する石だ。

## 2.日本の主な山岳団体の概要と歴史

- ・アルピニズム——スポーツアルピニズムの大衆化、
- ・大学山岳部・ワンダーフォーゲル部、職域山岳会、
- ・日本山岳会(JMA)—1905 年創立、会員相互の親睦、研究、調査
- ・日本山岳協会——1960 年創設、体協加盟、国体登山の運営、下部組織(都道府県)
- ・2017 年改称、日本山岳・スポーツクライミング協会(JMSCA)
- ・日本ガイド協会——環境省所管の社団法人、目的「登山の安全と自然保護に関する教育指導者を育成し、我が国における正しい登山の普及発展に寄与及び自然保護活動の推進を図る。」

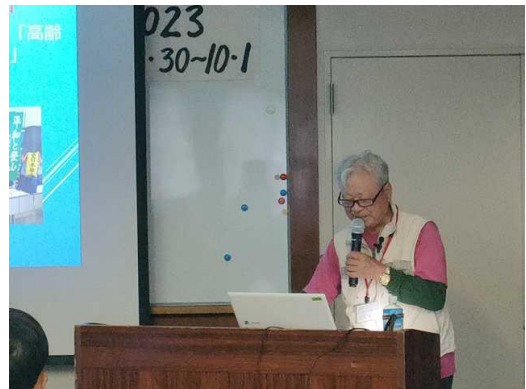
## 3.労山結成の背景。(抄)

- ・社会的、経済的背景——経済の高度成長、民主主義運動の成長
- ・既成山岳会の限界——登山の位置続け、既存のスポーツ界の体質

## 4.労山運動の歴史

・勤労者山岳会結成——1960 年 5 月会員数百名、これに続いて各地に「勤労者による勤労者の為の山岳団体」結成される。

- ・日本勤労者山岳連盟結成(JWAF)——1963 年、「安く、安全で、楽しい登山」
- これらに続いて田川勤労者山岳連盟結成——1965 年～青年の要求、福岡県連盟結成の経緯が話されました。(以下、割愛)



## スポーツ基本法関連の動き

- 1961 年 スポーツ振興法制定
- 2007 年 遠藤利明文部科学副大臣(当時)が設けた諮問機関がスポーツ省(庁)設置を提言
- 10 年 文部科学省がスポーツ立国戦略を発表
- 11 年 振興法を全面改訂し、スポーツ基本法制定
- 15 年 スポーツ庁設置市
- 23 年 スポーツ基本法改定に向けた検討開始

参考文献——講座の準備で資料としての文献。

- 「これまでの登山、これからの登山」 深野一郎 著
- 「人と山」 西本武志
- 「ひかり輝く山へ」 福岡県勤労者山岳連盟 20 年史
- 「結成 40 周年記念」 福岡県勤労者山岳連盟九州地区協議会

感想。登山の歴史の中で日本特有のものとして信仰登山について講義された。

「立山開山縁起」によると、701 (大宝元) 年、わずか 16 歳の佐伯有頼が開山のご神託を受け開山された立山。その時、有頼を導いたのが白鷹と黒熊であるという。佐伯有頼は文武天皇により越中国司に任ぜられた佐伯有若の息子であり、この 701 年は大宝律令の成った年である。つまり立山開山の縁起は国司として派遣された佐伯有若の時代に越中の民を衆合するための伝説では

ないか。

信仰登山のもう一つの例として講師・荒木氏の地元、英彦山の例が話された。英彦山を源流とする遠賀川の流域は農業・鉱業が盛んな土地として、遠賀川の水の大切にする信仰として英彦山を話されていた。この英彦山神宮の祀る神様としては天忍徳耳命(アマノホシメ)農業神とされている。つまり英彦山への信仰登山は地元の農業などを守り繁栄を願う信仰の現れとして続いてきたのではないか。

ここでは神様の御利益の話ではなく、山岳信仰もその時代の社会情勢や民衆との関係で発生し、生きてきたのではないか。また、そうした観点で山岳信仰をとらえるのも面白いと感じました。

(記 吉川)

## 2023 全国ハイキングリーダー学校に参加して

あつた勤労者山岳会 松岡尚子

奈良市で開催された「全国ハイキングリーダー学校」に1泊2日で参加して来ました。初日は奈良ユースホテルで「高齢者の体と登山」、「労山の歴史と平和と登山」の講義が行われ、2日目は実技山行「YAMAPを使って登山の安全管理学を学ぶ」。全国から集まった労山会員と交流し、翌日の高円山を楽しみに就寝しましたが、朝からあいにくの雨。それも出発前はけっこうな本降り。ということで、予定のコースが変更され、高円山には登らず、YAMAPの使い方に重点を置いて、ほぼ街中を歩くことになりました。



雨が上がり、奈良盆地が広がりました



この日一緒に歩いたC班のみなさん



奈良ユースホテルから出発点となる「高畑バス停」まではバス、車で各自移動します。この日はスタッフを含め50名ほどの参加があり、A・B・C班に分かれます。私は東三河山ぽ会の森さんと一緒にC班でした。

小雨の中、班ごとに YAMAP 講習が始まります。分岐点では「さて、どちらに進みますか？」と、リーダーがメンバーに問います。そのつど YAMAP の画面を確認しながら進みます。

白毫寺を過ぎ、お天気なら歩くはずだった登山道を少しだけ進みました。この日、雨で濡れた道はヒルがたいへん多く、流血した人はいませんでしたが、ヒルだ〜！と、ワーワー賑やかなこと。ヒルを避けて大急ぎで引き返し、東海自然歩道分岐へと向かいます。分岐からは柳生へと続く道を歩き、高円山から下ってくる予定だった登山道分岐を少しだけ登って、地図と YAMAP で現在地を確認しました。

この後、ゴール地点まで行って講習は終了。いくら便利な地図アプリがあっても、基本は地形をよく見て、地図自体の読み方を習得することが大事であると、あらためて学んだ講習会でした。講習の後は皆さんとのんびり春日大社まで歩き、奈良の鹿たちに挨拶してから帰宅の途につきました。

今回の「2023 全国ハイキングリーダー学校」のために、周到な準備、当日の運営に当たって下さった全国ハイキング委員の皆さま、並びにスタッフの皆さまに感謝いたします。

## 労山基金「オンライン説明会」の案内

全国連盟・労山山岳事故対策基金運営委員会より、2023年9月28日付けで題記の案内が来ているので紹介します。下記のように労山会員なら誰でも参加できますので、労山基金担当者をはじめ各会員には是非参加ください。

日頃より労山基金の運営にご協力いただき、厚く御礼を申し上げます。

本年は6月28日に基金担当者向け説明会を、また7月5日には一般向け説明会を行ない合わせて約140名の方が出席してくださいました。今回は2回のなかで関心が高く質問が多かった項目についてさらに理解を深めるために、下記の通り説明会を開催しますので、ぜひご参加ください。

記

1：11月8日(水) 19時～20時30分

2：参加形態 Zoom を利用した Web 会議

3：対象 労山会員で労山基金に関心のある方なら誰でも

4：申し込み 労山ホームページ ——INFORMATION

11/8(水)19:00 労山基金「オンライン説明会」のご案内

QRコードからも可能。

5：質問の期限 10月22日(日)まで

6：内容 ①ココヘリと労山基金

②労山基金と民間の山岳保険

③短期掛け捨て保険(2023年8月1日開始)

④事前に寄せられた質問への回答

⑤その他

7：申し込み期限： 11月1日までにいただいた方には事前に資料をメールします。

8：問合せメール kikib@jwaf.jp

【編集後記】 何年も植木鉢で育てていた植物が、この夏の暑さで枯れてしまったという話を良く聞きます。こんなことが自然の山の中でも起きているのではないかと、気候の変動でその土地での生育がギリギリになっていたような植物たちが、さらに追い込まれているのではないかと、そんなことが気になる秋です。

(事務局 井土)

ご意見、ご要望・投稿・写真などはメール、または県連事務所あてに郵送してください。

<http://aichirousan.web.fc2.com/> e-mail:aichirousan@gmail.com

Schedule 2023

11月			12月			2024年1月		
1	水		1	金		1	月	
2	木		2	土		2	火	
3	金	(文化の日)	3	日		3	水	
4	土		4	月	雪山安全講習会 実技山行打合せ	4	木	
5	日		5	火		5	金	
6	月	雪山安全講習会②	6	水		6	土	
7	火		7	木	組織担当者会議⑨ 女性部部会⑨	7	日	
8	水		8	金	冬山合宿連絡会議	8	月	(成人の日)
9	木	組織担当者会議⑧ 女性部部会⑧	9	土		9	火	
10	金	遭対担当④	10	日		10	水	
11	土		11	月		11	木	理事会⑫
12	日		12	火		12	金	
13	月	雪山安全講習会③	13	水		13	土	東海 B 雪崩講習
14	火		14	木	理事会⑪	14	日	東海 B 雪崩講習 交流山行(組織部)
15	水		15	金	自然保護担当⑥	15	月	
16	木	理事会⑩	16	土		16	火	
17	金	自然保護担当⑤	17	日	雪山安全講習会 実技山行(日帰り)	17	水	
18	土		18	月		18	木	組織担当者会議⑩ 女性部部会⑩
19	日	東海 B 雪崩 (机上)	19	火		19	金	冬山合宿報告会議
20	月	雪山安全講習会④	20	水		20	土	雪山安全講習会 実技山行(テント泊)
21	火	教育担当者会議⑧	21	木	全国理事会 教育担当者会議⑨	21	日	雪山安全講習会 実技山行(テント泊)
22	水		22	金		22	月	積雪期救助訓練机上
23	木	(勤労感謝の日)	23	土		23	火	
24	金		24	日		24	水	
25	土		25	月		25	木	教育担当者会議⑩
26	日		26	火		26	金	自然保護担当⑦
27	月		27	水		27	土	
28	火		28	木		28	日	交流山行(教育部)
29	水		29	金		29	月	
30	木	全国理事会	30	土		30	火	
			31	日		31	水	